

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社 レナール		
事業所名	グループホームオアシスことしば		
所在地	山口県 宇部市 寿町 三丁目2—5		
自己評価作成日	平成30年4月	評価結果市町受理日	平成30年10月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成30年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇部市の中心部に位置している当グループホームは、宇部線琴芝駅から徒歩5分の場所にあり、ご家族やご友人、ボランティア様など様々な方に訪問していただきやすい環境にあります。複合施設の2階に位置しており、窓からは公園や電車が見え、季節の移り変わりや行き交う人々を通じて時間や四季を実感できます。車で5分のところに行きつけのスーパーマーケットがあり、食事作りの食材や生活用品などを利用者様と一緒に買いに行っています。また、近くの保育園の園児さんたちと七夕飾りを一緒に飾ったり、運動会の練習を見学に行ったり、敬老の日にはプレゼントをいただいたりとたくさん交流させていただきました。地域の方々とは認知症サポーター研修を行なう際、ご案内を回覧していただき、一緒に研修を受けるなど交流が広がっています。神原ふれあいセンターで、雛人形展があり、スタッフも人形を展示させて頂き、利用者様やご家族と見学に訪れて楽しいひと時を過ごしました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議で検討を重ねられ、自治会と事業所が「一時避難所として施設の使用に関する覚書」を交わされています。会議での情報交換から、事業所に保育園児が来訪され利用者と一緒に七夕飾りをつくられたり、保育園の運動会や発表会の練習の見学に行かれるなど、保育園との日常的交流を進めておられる他、地区ふれあいセンターのひな飾りを利用者が見学に行かれるなど、地域とのつながりを深めておられます。運営推進会議メンバーや家族に運営推進会議の会議録を送っておられる他、年1回の家族会を運営推進会議と同日に開催され、会議メンバーや家族会とのふれあいの機会をつくっておられるなど、意見や要望を出しやすいように工夫され、事業所との絆を深めておられます。家族の支援を得られて、保湿剤の使用等での日々の皮膚ケアに取り組みられ利用者の状態の改善につなげられたり、教会の礼拝やつどいへの参加を続ける支援をしておられるなど、家族や地域のひとと一緒に、利用者の生きがいや喜びを育むケアに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく ゆったりと 安心して」の理念と、具体的なケア目標をユニットそれぞれに掲げ、事業所内に掲示しています。職員、利用者、来訪者がいつも見ることができ、それに基づいた係わりが日々できるように努力しています。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、事業所内に掲示している。各ユニットで職員が理念について確認しながら、日々のケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や地域行事への参加、保育園との交流を通してふれあいや交流を持っています。それを通して相互協力や、絆の深まりが利用者の生きがいにつながっています。	自治会に加入し、利用者は地区のふれあいセンターの雛飾りや福祉まつりのバザー、宇部新川まつりなどの行事に参加している。保育園児が事業所に来訪し、一緒に七夕飾りをつくったり、敬老の日のプレゼントや壁飾りを持参し、利用者は運動会や発表会の練習、餅つきを見に行き交流している。ボランティアのさざなみの会(紙芝居、クイズ、歌、手品、パネルシアター等)が年10回来訪している。月1回の法人施設合同の誕生会(ファミリーコンサート、子供たちの踊り、琴、フルート、八幡太鼓、ハンドベル、ピアノコンサート、ピアノ演奏など)に参加して交流している。利用者は、月2回の買い物や花見等の外出時や散歩時に近所の人とあいさつを交わし、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症オレンジサポーター養成講座を地域の方にも呼び掛けて施設で行い認知症の理解や支援の方法を学ぶ機会をもちました。また地域の避難所としての取り決めに自治会と協議して実現に向けて進んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価項目ごとのねらいや着眼点をガイド集で学びながら全職員で日々のケアを振り返ることができるように取り組んでいます。又評価を受けて、改善に向けた取り組みもしています。	管理者がカンファレンス時に評価の意義を説明し、職員はガイド集に目を通して考え方の指針やポイントを押さえるよう努めている。自己評価は項目を分担して職員が2人1組で検討し、各ユニットの管理者2人がまとめているが、職員からの意見は特になく、全職員での自己評価への取り組みには至っていない。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、災害時の地域との協力について運営推進会議で検討を重ね、自治会と「一時避難場所としての施設使用に関する覚書」を交わしているなど、具体的な改善に取り組んでいる。	・全職員での自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告、活動内容の報告、外部評価の課題のにも地域の理解と支援を得て改善に向けて取り組み、サービスの向上に努めています。	会議は2ヶ月に1回開催し、近況報告(利用者状況、行事報告、職員状況)やヒアリング、事故報告、外部評価結果等を報告し意見交換をしている。年1回(3月)家族会と一緒に開催している。会議録は毎回、運営推進会議メンバーや家族に送付し、事業所への理解を深めている。地域のイベントの紹介を受け利用者と参加したり、保育園との情報交換をして園児との交流を深めている。会議で災害時の地域との協力について協議を重ね、自治会と「一時避難所として施設の使用に関する覚書」を交わしているなど、運営推進会議を活かしてサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで運営やサービスの現状を伝えています。市の担当者からは、介護関連の情報の提供があり、サービスの向上に役立っています。	市担当者とは、運営推進会議時や直接出向いて情報交換や相談をして助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターは同一法人内にあり、研修情報の提供など連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が身体拘束に対する知識、理解を深め利用者にかかわっていく努力をしています。日常の言葉や態度にも不適切な対応がないか注意し合っています。玄関の施錠については利用者の安全を考えて、時間帯や状況によって短時間の施錠を利用者家族の承諾を得て行っています。	スピーチロックや行動制限など気になるところがある時には、その都度、管理者が指導や注意をしている。玄関は18時30分から翌朝9時30分は施錠している。見守りのため昼間に施錠する時や足元センサーマット、ブザーを使用する時は、運営推進会議で話し合い、家族に相談して、利用者の行動を制限しないよう努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修で虐待防止関連法について学んでいます。特に心理的虐待につながる不適切なケアを見過ごさず注意しあうことで虐待の防止に努めています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で市の出前講座を利用して学ぶ機会を持っています。現在利用している方もおられますし、支援が必要となる方には情報提供ができるように準備をしています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ゆっくりと丁寧に説明しながら不安や質問にその都度答えながら進めています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けて受付体制を整えています。家族からの意見や要望は、来訪時や運営推進会議などにうかがう時間を取っています。	相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員などを契約時に利用者と家族に説明している。家族の面会時や年1回の家族会参加時、電話、メール、ラインで、家族からの意見や要望を聞いている。事業所だよりを年4回(定期)と何かあるとき(随時)に送ったり、家族会を運営推進会議と同日に行って、意見や要望を出しやすいように工夫している。意見や苦情があれば、業務日誌に記録して職員間で共有している。家族の状況の変化に伴うケアに関する要望に対応したり、家族から物品(車イス)の寄付を受けるなど、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の気づきや意見、要望をうけて、ケア会議や申し送りノートを活用して情報を共有し、意見をまとめて運営側にも働きかけて、改善を図っておりサービスに反映させています。	管理者は、月1回のユニット会議や毎日の申し送りで職員の意見や提案を聞いている他、日常の業務の中でも意見や提案を出しやすいよう努めている。意見や提案は、月1回の法人の幹部会議で報告し検討をしている。収納が足りない利用者があったので職員の意見で各部屋に衣装ケースを設置したり、薬の申し送り簿を作成し活用している他、夜間日報の様式を両ユニットで共用し活用しているなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、業務の効率化や、やりがいを持って働くために研修への参加の提案、有資格者の時給アップなど職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回の法人内の研修や、グループホーム独自の研修、外部の研修を受けることでケアの質の向上につなげています。又日常の介護においてケアの注意点を確認し合いながら向上に努めています。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として中堅研修や実践者リーダー研修、認知症研修、介護福祉士ブロック研修など、受講の機会を提供している。受講終了後は、研修報告書を提出し、内部研修で報告して職員間で共有している。法人(拠点施設)研修は、年6回外部講師を招いて実施(災害時対応、口腔ケア、薬の知識、認知症の理解、感染症防止、腎臓病)している。内部研修は、各ユニット毎にカンファレンス時に年6回、管理者がテーマ(体操、緊急時対応、服薬、熱中症、認知症、救急車の呼び方、感染症等)を選び、管理者や職員が講師となって実施している。新人は日々の業務の中で管理者や先輩職員から介護の知識や技術を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設が県GH協会に所属し、勉強会や親睦会などへ参加しています。そこで県内の他施設との交流や、施設見学の受け入れや情報交換の時間をもっています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学や、申し込みの時より本人、家族とゆっくりと時間を取って話を伺っています。話しやすい雰囲気づくりや具体的に質問するなど意見が出しやすいようにし、不安を少しでも除けるように対応することで信頼関係を築いていけるように心がけています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族の不安や、要望をゆっくりとかがい、苑での対応などを説明させていただいています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、必要な支援がグループホームであるかを見極めをして、他の支援も含めて情報提供をしています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、調理や、洗濯、掃除などを共に行い、お互いが感謝の気持ちを持ち、伝え合う関係を築いています。また、外出など、楽しい時間を共有し絆を深める中で、悲しみや不安に寄り添う関係が築けています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には苑での様子や日用品や嗜好品などの購入を電話やメール、ラインなどでお伝えし、定期的に面会に来ていただいたり、本人の希望される時などに電話で声を聞かせていただいています。日常的にご家族の話題を出していつも支えてくださっている事をお伝えし、苑での生活に安心感を持っていただけるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親せき、ご友人の訪問時にはゆっくりと過ごせるように配慮しています。外出の際は、自宅や近くの公園、神社、などに行く事で思い出を大切にしています。	家族の面会や親戚の人、友人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。事業所から利用者の自宅付近に出かけたり、家族の協力を得て、寺参りや馴染みの商店での買い物、法事への参加、墓参り、一時帰宅、外泊、琴崎八幡宮や自宅近くの公園、教会の礼拝のつどいへの参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のきずなが生まれるように集団での活動や外出、日常の場面場面で触れ合ったり、会話が弾むような話題提供、お互いを認め合えるような場面を設定して関わりを深めています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方々の家族と電話やメールを通じてその後の様子を聞くなど連絡を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に関わる時間を大切にし、職員から積極的かつ具体的に要望を聞くようにしています。難しい方には、行動や会話、表情やしぐさ、声のトーンなどを観察しながら思いの把握に努めています。	入居時に基本情報シートやフェイスシートを活用して、利用者や家族の思いや意向の把握をしている。日々の関わり合いの中での利用者の表情や言動を経過記録に記録し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、申し送り簿やカンファレンス記録で共有している。把握が困難な場合は、カンファレンスで全職員で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を職員で共有し、入居後に本人が繰り返し語るエピソードや、家族からの思い出話などを記録に残し、把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を記録しながら生活のリズムを把握し、その中で体調や気持ちの変化に気付くことができるように努めています。また、それぞれのできる事、わかることを生活の中から見つけることを大切にしています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常の言葉や態度から出る要望を職員全体で拾いながら課題やケアの在り方について話し合いプランにも反映させています。ご家族、主治医、訪問看護師からの意見や要望なども反映させています。	利用者や家族の思いや要望を聞き、主治医や訪問看護師の意見を参考にして、月1回のカンファレンスで職員が話し合って介護計画を作成している。介護計画の短期目標を業務日誌に記載し、常に職員がケアをチェックできるよう工夫している。3か月に1回、管理者や利用者を担当している職員がモニタリングを行い、6か月毎に見直をしている。本人の状態や家族の要望に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践からの気づきや工夫を個別記録に記入し情報を共有し、それに基づき話し合う事でより良い介護の実践に繋げています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かしての往診や、入院の回避、早期退院の支援に取り組んでいます。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会長、保育園の園長、地域のお世話役の方が運営推進会議の委員としておられ、地域行事の案内や公民館行事に招待を受けて協働の活動が始まっています。保育園との交流や、ボランティアの訪問も多くあり、豊かな暮らしを楽しむことができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医へ定期受診を継続しています。事業所の医療機関の訪問診療(月1回)を受け、健康管理を行なっていて、夜間や緊急時などの対応にも備えています。	本人や家族の希望により協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回訪問診療を受けている。緊急時や夜間、休日は24時間オンコール体制で対応している。歯科は月1回、訪問診療があり、家族である皮膚科医の協力を得て、不定期に乾燥肌対策や水虫治療の訪問診療がある。その他の科は、家族の協力を得て受診の支援をしている。診察結果は家族に電話で報告し、申し送りノートや業務日誌に記録して職員間で共有している。月2回訪問看護師による健康観察があり、状態に変化があれば協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に(月2回)訪問看護師によるバイタル測定や経過、情報提供を行い治療の対応や医療への連携等の相談をしています。緊急時には、当施設内の看護師応急処置の依頼をし、その後医療機関へ繋いでいます。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、日頃の状態を早急にまとめ、サマリーとして情報提供しています。入院中も経過や退院状況などを主治医や看護師に確認し、できるだけ面会に行くようにしています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人家族の意思を尊重し、事業所としての役割支援体制を明確にし、スタッフ間の情報共有も密にして出来る限りの支援を行なえるようにしています。	看取りに関する指針を基に、契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重症化した場合は早い段階から利用者や家族の意向を聞き、主治医や関係者との話し合いを行って方針を決めて共有し、法人や協力医療機関等と連携して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	高齢化に伴い利用者一人ひとりのADLの低下や認知症の進行が見られる中、状態把握の徹底や変化に留意し、また福祉用具の活用や食事の工夫など、事故防止に努めています。カンファレンス会議などで事故対応のシミュレーションをしています。	事例が生じた場合は、当日の担当者が、ヒアリハット、事故報告書に原因や対応、今後の対応策を記録して管理者に提出している。月1回のカンファレンスで再度話し合い、個別の介護計画に反映して、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で、緊急時の対応や救急車の呼び方の研修を年2回実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体の取り組みとして避難訓練や消防署による点検や研修を実施して知識を得られるよう努めています。地域との協力体制も自治会との話し合いですすんでいます。	年2回(内1回は消防署の協力を得て)、拠点施設合同で、昼夜の火災を想定した通報、避難、消火、避難経路の確認の訓練を、利用者も参加して実施している。マニュアルがあり、避難訓練に参加していない職員は、月1回のカンファレンス時に学んでいる。運営推進会議で協議を重ね、事業所を地域の人の一時避難場所として活用できるよう検討し、覚書を交わしているなど、地域との協力体制を築く取り組みをしている。	・地域との協力体制の構築にむけた取り組みの継続
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライドを傷つけない対応 声かけを行っています。排泄や入浴時にはプライバシーに配慮し、誇りを損ねないよう職員全員が注意をはらって支援しています。	法人の認知症研修で年1回、内部研修で年1回、人格の尊重やプライバシーの確保について学び、職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。気になるところは管理者が注意している。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を遵守するよう取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを普段の表情や会話から引き出せるよう心がけ、生活の中のささいな場面で自己決定できるよう働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしています。活動を行なう際も本人の希望をききながら支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は好みのお洋服を自己選択されています。行事や外出日には季節や場面に合った帽子や手袋、スカーフなどを選択されます。化粧品、髪型などご家族や出張美容院の協力により支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたメニューや行事ごとのメニューなどで食べる事への楽しみを持てるよう、また食事作りでは好みを取り入れたメニューも楽しまれています。食事の盛り付けや片付けなど職員と一緒にされます。	法人からの配食を利用し、汁物とご飯は事業所で作っている。週1回、昼食を利用者と一緒に事業所で作る、利用者は買い物、調理、味見、盛り付け、テーブル拭き、配膳、後片付けなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話をしながら楽しく食事をしている。季節の行事食(おせち料理、ちらしずし、柏餅、土用のうなぎ、七夕のソーメン)や毎月1日の赤飯、法人の誕生会での刺身、誕生日のケーキ、納涼祭のバザー(いなりずし、ちらしずし、焼き鳥、かき氷、ノンアルコールビール等)、おやつ(すずカステラ、かき氷、ぜんざい、ホットケーキ、抹茶会)や保存食(梅ジュース)づくり、外出時や売店、訪問販売店(週1回)でのお菓子の購入、家族との外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや形態に配慮し提供しています。食事量、水分量の記録から職員が、過不足に応じて摂取量の調節を行い一日を通して必要量が摂取できるよう支援しています。また、体重の増減にも注意しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い 必要に応じ職員が介入して行なっています。義歯は就寝前に洗浄剤にて消毒を行なっています。訪問歯科による定期健診(月1回)も行なっています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用する事で排泄パターンや時間を把握しさりげない誘導や声かけを心がけています。個々の力や気持ち、また使用する時間帯に合わせた排泄用品を選択し、快適に過ごして頂けるよう支援しています。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者に合った言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄状況を把握 記録し、スタッフ間で情報共有しながら水分補給や体操、散歩等の運動を通して便秘予防に努めています。便秘気味の方には腹部マッサージしたり、主治医に相談して薬の調整を試みる事もあります。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に合わせて時間帯、温度など好みにも対応して入浴をゆっくり楽しむことができるよう心がけています。本人の状態に合わせてシャワー浴、足浴、清拭等に代えて清潔保持できるよう支援しています。	日曜以外の毎日、10時30分から16時までの間、湯加減、順番など、利用者の希望に合わせて入浴できる。季節の柚子湯や入浴剤の利用、個人用の化粧品やオイルの利用、セラミドのかかり湯、手すりを利用したスクワット、職員との会話等、利用者一人ひとりがゆったりとくつろいだ入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人には、無理強いしないで入浴時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、下半身シャワー、シャワー浴をなど個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、その日の体調や活動状況に応じて個別に休息が取れるよう支援しています。昼夜逆転気味の方には、その原因突き止め、生活リズムの見直し、夜間落ち着ける環境(灯り、室温、居室レイアウト、話の傾聴)作り		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の作用、副作用、用量等について処方箋や薬局でいただく情報等で確認しています。詳しく知りたい情報は、薬の辞典で調べたり薬局に問い合わせる等して理解に努めています。症状の変化を医師に報告し対応しています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が自主的に行われる生活(配膳、選択物干し、たたみ、食事作り、食器洗い、盆拭きなど)場面での支援。買い物、外出などの希望。季節の行事への参加。趣味活動への協力など、家族と一緒に出来る範囲での支援を心がけています。	季節の壁飾りづくり(折り紙、貼り絵)、保育園児と一緒に七夕飾りづくり、花を生ける、広告紙でごみ箱づくり、雑巾を縫う、電子ピアノ演奏、そろばん、習字、写経、雑誌や新聞を読む、皇室アルバムを見る、テレビやDVD視聴、日記をつける、ぬり絵、貼り絵、編み物、ラジオ体操、リハビリ体操、ボール体操、タオル体操、ダンベル体操、口の体操、トランプ、かるた、おはじき、お手玉、坊主めくり、計算ドリル、漢字ドリル、数字取りゲーム、ストロー分けゲーム、風船バレー、ジェンガ、言葉だしゲーム、しりとり、クイズ、掃除(モップで床掃除、ハンドワイパー掛け)、ゴミ捨て、カーテンの開閉、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯たたみ、食事の準備や片づけ、週1回の昼食づくり、おやつづくり、コンサートの参加、誕生会など、利用者の喜びや張り合いとなる場面を多くづくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、その日の天候、体調を観ながら外出支援を行っています。個々の体力、状態に合わせての散歩、買い物やドライブ。家族と外食、一時帰宅、法事などへの出席、外泊。地域行事への参加など一人ひとりの希望に応じて戸外へ出かけられるよう支援しています。	季節の花見(桜、バラ、菖蒲、紅葉等)、ドライブ(自宅周辺、八幡様、竜王山、空港、海の見える東岐波、北向き地藏)、琴崎八幡宮の初詣、市民館(鳩の餌やり、つつじの花見)、湖水ホールコンサートと散策、水神様、福祉会館の梅見の散策、買い物(スーパーやコンビニ)、職員の家の畑での野菜(きゅうり)の収穫、事業所周辺の散歩、家族の協力を得ての外食、法事への参加、墓参り、一時帰宅、外泊、寺参りや馴染みの商店での買い物、、教会の日曜礼拝や行事(コンサートのつどい等)など、利用者一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自己管理されている方もおられ、本人の希望により買い物にでかけている。自分の財布からお金の支払いが出来るよう支援しています。自己管理が難しくなられた方も、ご家族からの預かり金(職員管理)で受診や買い物時の支払い支援をしています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルームの電話にて、ご家族からの電話や自分でかけたい場合などゆっくり会話が出来るよう配慮しています。はがきや手紙、年賀状などのやりとりがスムーズにいくよう支援しています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎朝掃除をし、長い廊下のモップがけを、足の運動と楽しみながらされたり、転倒の原因となりうる物や水分が無いかな、確認も兼ねて行なっている。廊下には利用者の作品(毎月のカレンダー塗り絵)を貼り、季節を感じるコミュニケーションツールにもなっているようです。	共用の広い空間には大きな机や椅子、ソファをゆったりと配置し、いろいろな人と話が出来るように配慮している。広々としたガラス窓から公園の木々が展望でき、季節の花や壁面飾り、利用者の作品などで季節感を感じることができる。利用者が主体的な生活ができるよう、パズルなどのレクリエーション用具や雑誌などを自分で取り出せるように収納を工夫している。室内の温度や湿度、換気、整頓に配慮し、利用者が心地よく過ごせるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には一人掛け、数人掛けのソファを置き、一人又は数人でくつろげる環境を用意しています。本棚のそばにも椅子があり、ゆっくり雑誌や本を読むことができます。また、外の景色を眺めながら、思い思いの時間を過ごせる空間となっています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談の上、居室のレイアウトを決めています。本人の使い慣れた家具や好みの物を置き、その人らしく居心地の良い空間となるようにしています。持ち物が少ない場合でも職員がその方らしく暮らせるような環境づくりに取り組んでいます。	テレビ、時計、椅子、電子ピアノ、ソファ、衣装ケース、鎌倉彫の3段箱、鏡、くし、自然に関する図鑑、聖書、ルーペ等使い慣れたものや好みのものを持ち込み、ぬり絵などの自身の作品や家族写真、造花、ぬいぐるみ、カレンダーなどを飾って本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能、状態に合わせて歩行器やシルバーカー、車椅子、センサーマットなどを取り入れています。日用品の収納は利用者が作業し易く、安全に生活できるようその方の状況に合わせて環境整備をしています。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム オアシスことしば

作成日：平成 30 年 10 月 15 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	全職員での自己評価への取り組み	1. 今までの書き方を見直す 2. 目標達成計画をスタッフ全員でたてる	具体的なケア(現在実践しているケア)の内容などを記入する。 項目を振り分けない。一人ひとり全項目に取り組む。	1年
2	15	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	内部研修の充実を図る	1. 必ず行なうべき研修(接遇、身体拘束、虐待、応急手当等) 2. 知らないこと、知りたい事について 3. 実践に基づいたその時々課題について 4. 研修計画をたて、実践を記録に残す	2年
3	16	地域との協力体制の構築にむけた取り組みの継続	地域との協力体制構築の強化と継続を図る	1. 地域へ向けた啓もう、PR活動の継続 2. 地域委員を増やしていく活動の継続 3. 避難訓練の声かけ、参加を募る。見学への呼びかけ	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。